

東日本大震災 保養プログラムへ奄美

「心身ともにリフレッシュ」

東北教区放射能問題支援対策室
いずみ運営委員長 布田秀治

今回、九州教区東日本大震災対策小委員会、奄美地区の皆さんにすくお世話になりました。下調べから打合せ、細やかな心配り、その暖かさは参加した一人ひとりの心にしつかり届きました。参加者の感想を紹介します。「放射能の不安から解放されて、たくさん笑顔とたくさん仲び仲びと過ごし、また貴重な経験もたくさんさせていただき、子どもたちはもちろん、母親の私にとっても心身ともにリフレッシュできました。」「遠く離



踊る人々 瀬戸内教会にて

れることで安心して空気が吸える、安心して外で遊んだり、食べたりさせられました。」

東京電力福島第一原子力発電所の爆発事故から5年、放射能被曝への不安に対し、いちばん身近にいる家族や夫の理解が得られなくなっている人、学校でも職場でも本音を語れなくなっている人が増えています。そんな思いに押し潰されそうに過ごしていた人たちが、心と体を解放される時間、それが保養プログラムです。奄美の悠然とした自然はそれに持つてこいの場でした。

奄美空港に着いてすぐに「あやまる岬」に行きました。嬉々として走り回って遊ぶ子どもたちの姿は心むすスタートでした。「事故の後、海に入ったのが初めて」という人もいます。奄美と言えども、まだ水温はそれほどではないにもかかわらず、体を震わせながら海遊びを楽しんでくれました。「今日は皆さんに重大発表があります」という謎かけが始まった誕生祝のサブライズ。そして突然鳴り出したフオーチュンクッキーのメロディに躍り出すスタッフとお母さん。足をねん挫して車椅子で移動していた男の子が、みんなと一緒に鬼ご

つこする誘惑が良薬となつて、一



思いつき海遊び

気に走り回るといふハプニング。最後の藍染め体験では、私の息子が瀬戸内教会にお世話になつていたのよ。日曜日になると喜んで教会に行つていた。」と工房の吉川さんが話してくれました。つながりの深さを思わせられ感動しました。

2012年春から始めた保養プログラム、今回9回目でした。今夏北海道で予定していますが、そこで一つの区切りをつけなければなりません。今後どのような形で保養を継続できるかが大きな課題です。一人でも多くの方がご支援をお願いします。

この機会を与えてくださった九州教区の皆さんに心から感謝します。最後に熊本地震の被災者のために祈ります。5年前の経験が重なります。一日も早く平安を取り戻すことができますように。

東北教区被災者支援センター・エマオだより

支援センター・エマオでは、「スローワーク」＝「丁寧な出会い」と「お祈り」を大切に、ずっと繋げてきています。

～祈りの課題～

○「熊本・大分地震」を覚えて

- ・避難生活を余儀なくされているお一人お一人の健康が守られますように。必要な支えがありますように。
- ・支援活動に関わるお一人お一人、特に教師とご家族が守られますように。

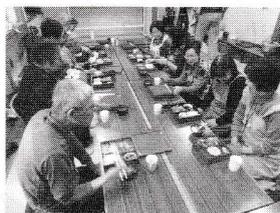
○「東日本大震災」を覚えて

- ・仮設住宅から新しいお住まいへ移転する動きが加速しています。仮設住宅から出られた方の中には、ご家族が仕事に出しまうと、日中ひとりとなり、不慣れた空間で孤立しがちで、「仮設の方が良かった」と言われるご高齢の方もおられます。移られた地域で、地域コミュニティの中で安心して暮らすことができますように。お一人お一人に、必要な支えがありますように。

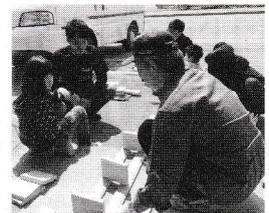
東北教区被災者支援センター・エマオ
〒980-0012 仙台市青葉区錦町 1-13-6
Tel 022-265-0173 Fax 022-265-0174
E-mail tohoku.uccj@gmail.com



2016年3月に2名のスタッフがこの働きを離れ、新たな道を歩み始めました。2016年4月に新たに2名のスタッフが加わり、16名でスタートしました。「スローワーク」と「お祈り」を大切に、活動をつないでいきます。引き続きお祈りください。



仮設の集約により集会所が使えなくなることを見越し、市民センターで昼食会を企画しました。移られた地域で、地域コミュニティの中で安心して暮らせるようになるまで、月1回ですが昼食会の時を続けていきたいと願っています。



子どもプログラム(ささっこクラブ・仙台)では、子どもたちと地域の繋がりをつくりたいと願っています。この日、大工さんをしている町内会長のSさん(写真中央)が、先生役を快く引き受けてくださり、ブックエンドと一緒に作りました。